# 全国大会
# 発表方法の移り変わり

## SINCE 1960～2010

この半世紀におけるコンピュータ産業の発展は目覚ましいものがある．居室ほどの大きさがあったコンピュータは手のひらサイズになり，情報処理速度は飛躍的に向上した．また，チェスなど専用コンピュータは1秒間に2億手を計算し，コンピュータが人間に勝つほどにまでなっている．
昨今では，GoogleやAmazonをはじめとしたWebサービスが台頭し，世界を席巻している．その技術は，体系を経つつも，今なお進化を続けている．コンピュータは確実に社会のインフラとなりつつあり，情報処理技術がそのベースを担っていることは言うまでもないだろう．

日本においては，今から50年前の1960年に情報処理学会が設立された．現在会員数は2万人を超え，年2回の全国大会を開くまでに成長している．そこには，多くの方の熱意と，さまざまな想いがあったことは想像に難くない．

「写真で綴る情報処理学会 全国大会50年史」では，全国大会にまつわる写真やエピソードを紹介しながら，これまでの歴史を振り返っていく．そして，これからの情報処理学会について考えていきたい．本記事が，次の時代へのかけ橋となれば幸いである．

# 創成期の全国大会

KDC-1（京都大学ディジタル型万能電子計算機第１号）と湯川秀樹博士

当時の情報処理学を伝える貴重な一枚．KDC-1 は大学向けの最初のゲルマニュームトランジスタ計算機．クロック数は 230KHz と現在とは比べ物にならないくらい低い．この写真は，湯川秀樹博士に KDC-1 について説明している写真である．説明しているのは萩原宏名誉教授．

1960年当時の写真が物語るように，電子計算機は非常に珍しいものであった．そのような時代背景の中，IFIP対応に合わせて情報処理学会が発足する．

情報処理という言葉は，Information Processingの邦訳である．今でこそ，この情報処理という言葉は一般化しているが，当時は情報にはスパイ的な行為をイメージさせ，処理には汚物処理というイメージがあったため，好評ではなかったという．

情報処理学会全国大会の第１回は，設立と同じ年1960年（昭和35年）11月17日～18日に開催された．場所は，東京大手町の産経会館（現：サンケイ会館）である．発表数は29件，参加登録者数は243人であった．また，発表者は大学の先生や企業の方たちがメインで，現在の全国大会とは，その規模も内容も異なっていた．黎明期においては，規模が大きくならず，多くの苦労があったそうだ．

では，当時の資料や写真を交えながら，現在の全国大会までを振り返っていこう．

## 昭和 35 年（1960 年）

**一般社会**

・安保闘争　・池田内閣誕生　・チリ地震津波

**情報処理学会**

・学会設立発起人会，評議員会
・学会誌「情報処理」創刊号発行
・第 1 回全国大会を産経会館で開催

## 昭和 36 年（1961 年）

**一般社会**

・嶋中事件「風流夢譚」　・株式大暴落（10.9）　・日米箱根会談

**情報処理学会**

・第 2 回通常総会を日本電機工業会館で開催
・月例講演会を 12 日（3 件）と 26 日（2 件）に産経会館で開催
・第 2 回全国大会を日本電機工業会館で開催

**歴代会長　初代 山下 英男（1960 ～ 1962）**

### 第 1 回情報処理学会全国大会予稿集表紙

1960 年（昭和 35 年）の記念すべき第 1 回全国大会の予稿集である．写真は，情報処理学会で管理されているもの．当時の予稿集のため，その色合いは歴史を感じさせる．全国大会の歴史は，この 1 冊からはじまった．第 1 回の予稿集には広告はなく，発表内容のみの記載であった．

### 第 1 回予稿集の論文（KDC-1 のシステムと論理の構成）

京都大学名誉教授 矢島脩三先生が実際に所蔵していた第 1 回の予稿集．KDC-1 とは Kyoto-Daigaku Digital Computer 1 の略で大学に納品された初の電子計算機である．当時の論文は，ほとんどすべて手書きで，現在と比べると温かみの感じられる，味わい深いページである．また，見出しを太くするなど，わかりやすさの工夫もされている．図表も手書きであるため，定規などを用いて引いており，とてもわかりやすく作成されている．ページの右側には，パンチの穴の跡があり，保管されていたことが窺える．

### 全国大会の講演者数・参加者数の推移

1960 年（昭和 35 年）に始まった情報処理学会全国大会．2010 年を迎えた現在，その歴史は 50 年を数えるようになった．年々，活況となる全国大会は今でこそ講演者数で 1,000 人を超えるほどだったが，第 1 回開催当時は 30 人を下回ることも多かった．

第 10 回全国大会前後（昭和 40 年代中盤）から講演者数は増加しはじめ，第 11 回全国大会では，はじめて 100 講演を上回る 190 講演となった．

以降，その数は年々増え続け，第 30 回全国大会（平成 2 年）では，1,000 講演を超えるほどの盛況をみせた．

近年では，会場の規模も大きくなり，ほぼ毎回 1,000 を超す講演が行われている．その長い歴史は，今後も続いてゆくはずだ．

## 昭和 37 年（1962 年）

**一般社会**

・三河島事件　・偽札横行　・キューバ危機

**情報処理学会**

・英文誌「Information Processing in Japan」創刊号発行

・IFIP Congress 62 がミュンヘンで開催．日本から 12 名参加，論文 5 件発表．

・第 3 回全国大会を日本電機工業会館で開催（招待 2 件，論文 21 件）

## 昭和 38 年（1963 年）

**一般社会**

・東京国際スポーツ大会開催　・ケネディ大統領暗殺

**情報処理学会**

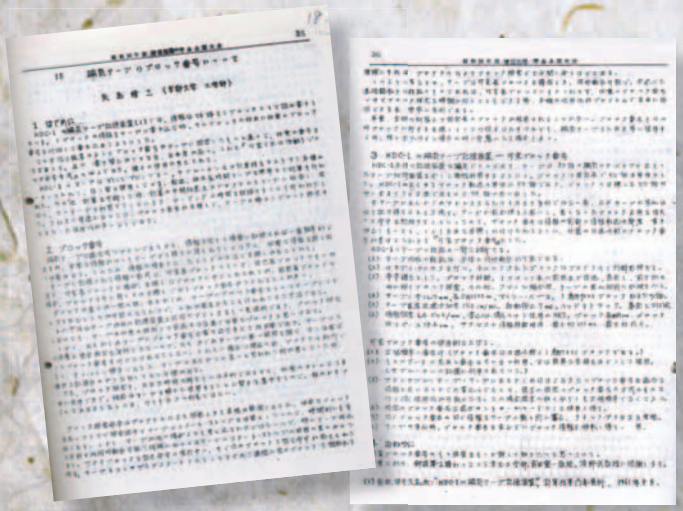
・「電子計算機ハンドブック」編集委員会（委員長：後藤以紀）を設置

・文部省から社団法人情報処理学会の認可があり，ただちに登記完了

・第 4 回全国大会を日本電機工業会館電気試験所で開催（招待 4 件，論文 40 件）

**歴代会長　第 2 代 後藤 以紀（1963 ～ 1964）**

# 創成期の全国大会



**第 2 回予稿集の論文（磁気テープのブロック番号について）**

この写真も京都大学名誉教授 矢島脩三先生が所蔵していたもの．第 1 回とは違い，文章のみの論文となっている．冒頭で湯川秀樹先生が説明を受けていた KDC-1 の磁気テープに関する内容である．当時，文章を修正したい場合は，紙を貼ってその上から新たに文字を書き足していた．そのため，その紙のラインが映ることもあった．

**日立ディジタル型電子計算機の広告**
**（情報処理学会誌 1960 年第 1 巻第 2 号）**

情報処理学会設立後，情報処理学会の学会誌「情報処理」が発行された．写真の広告は，日立製作所の HITAC（HItachi Transister Automatic Computer）．HITAC-102 は，京都大学に納品された KDC-1 と同じものである．当時，その会誌の体裁を上品なものにしたいという要望から，広告はあまり掲載されなかったとのこと．また，広告を掲載する場合には，裏ページにも広告か会告を掲載することで，そのページがなくても記事が失われないようになっており，学術的な要素に重きを置いていた．

**日本のコンピュータパイオニア（1964 年，蔵王）**

左より東京大学の元岡達先生（計算機工学の先達），東京大学の後藤英一先生（パラメトロン），電電公社電気通信研究所の喜安善市氏（MUSASINO-1），電気試験所の西野博二氏（ETL Mark III，IV），京都大学の矢島脩三先生（KDC-1）．写真は，東北大学の野口正一先生（SENAC-1）が主催した研究会の際に撮影されたもの．撮影者は早稲田大学通信工学の先達である富永英義先生．日本のコンピュータを牽引し，後世に多大な影響を与えたパイオニア達である．

## 昭和 39 年（1964 年）

**一般社会**

・東京オリンピック　・佐藤内閣誕生　・異常気象

**情報処理学会**

・国際セミナ「日米第 1 回機械翻訳」を東京で開催
・ICC 国内委員会（委員長：後藤以紀）を設置
・第 5 回全国大会を日本電機工業会館電気試験所で開催

## 昭和 40 年（1965 年）

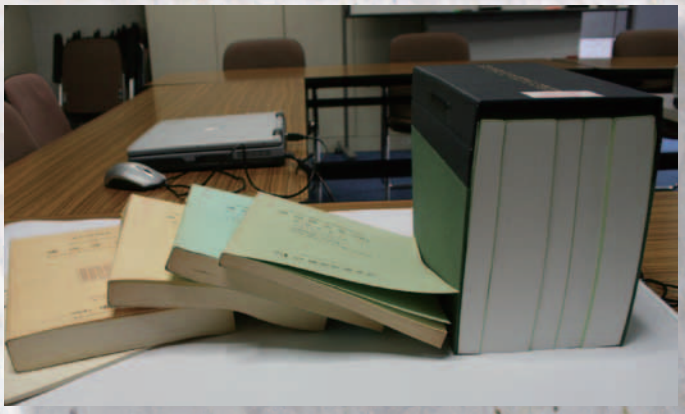
**一般社会**

・日韓条約成立　・ILO 条約承認成立　・ベトナム戦争激化

**情報処理学会**

・Authur Burks 教授（ミシガン大）の国際講演会を開催．情報処理月例会が始まる（毎月第 3 火曜日）
・第 6 回全国大会を日本電機工業会館電気試験所で開催

**歴代会長　第 3 代　山内 二郎（1965 ～ 1966）**



### 予稿集の厚み比較

第 15 回ぐらいから，予稿集が厚くなり，第 25 回ではじめて 3 冊となる．第 70 回では，縦に立つほどの厚みとなった．第 70 回では，5 冊となっている．
現在は，第 1 回とは比べ物にならないくらいの分量になっている．50 年という時の流れは，そのすそ野を広げ，より多くの人が参加する学会となった．この厚みから，全国大会の規模も容易に想像できる．

### 予稿集が CD-ROM に収録

全国大会の規模が大きくなるにしたがって，予稿集も厚くなり，持ち運びにくくなった．CD-ROM になったのは，第 53 回から．当時は，ブラウザで予稿集を閲覧していた．

## 昭和 41 年（1966 年）

**一般社会**

・いざなぎ景気　・国産ロケット打ち上げ
・米ソ無人月探査機軟着陸

**情報処理学会**

・第 7 回全国大会を JICST 電気試験所で開催
・日本電子計算開発協会「コンピュータ白書」発行

## 昭和 42 年（1967 年）

**一般社会**

・交通死傷者が史上最高　・吉田元首相死去，国葬
・モントリオール国際万博開催

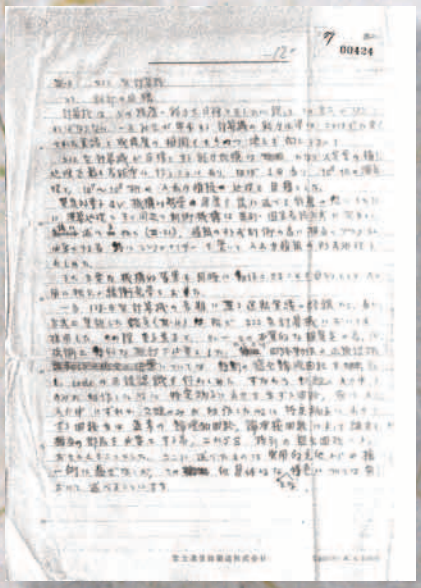
**情報処理学会**

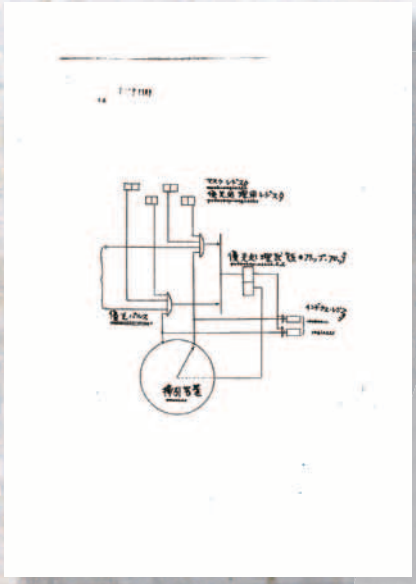
・ニュースレターの発行（1967 年度 3 回発行）．大会・講演会などの予告
・第 8 回全国大会を機械振興会館で開催

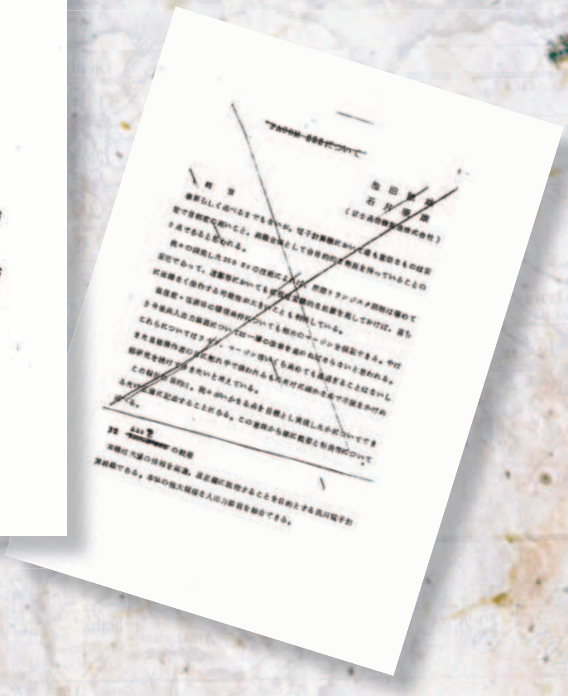
**歴代会長　第 4 代　出川 雄二郎（1967 ～ 1968）**

# 創成期の全国大会

FACOM 222 に関する発表原稿（富士通沼津　池田記念室）







情報処理学会全国大会の第 1 回大会でも発表された FACOM 222 に関する発表原稿．池田氏の第 1 回の発表内容は「FACOM 222A の命令と構成について」（富士通　池田敏雄，小島久郎，石井康雄，野沢興一）である．また，第 1 回大会には，後に富士通で共に電子計算機の開発を行う鵜飼直哉氏（当時東工大）も参加していた．

FACOM 222 の実物
資料提供：富士通株式会社 URL:http://jp.fujitsu.com/
富士通ミュージアム URL：http://jp.fujitsu.com/museum/

FACOM（Fujitsu Automatic COMputer）は，国産初のリレー式コンピュータである．FACOM 222 は，富士通信機製造（現富士通）が初めてトランジスタを採用したコンピュータで，1 万語の磁心記憶装置（コアメモリ）を搭載していた．また，補助記憶装置として 1 台 1 万語の磁気ドラムを使用しており，最大 10 台（10 万語）まで接続ができた．当時としては，国産最大の汎用コンピュータであった．また，ソフトウェアは使用者が機械語でプログラムを作成するタイプである．

## 昭和 43 年（1968 年）

### 一般社会

・東大紛争，学園紛争続発　・小笠原諸島，日本に復帰

### 情報処理学会

・第 9 回全国大会を機械振興会館で開催
・第 1 回情報科学若手の会がモテル箱根で開催（以降毎年 7 あるいは 8 月に開催）
・第 1 回 ICC-OTCA セミナ開催

## 昭和 44 年（1969 年）

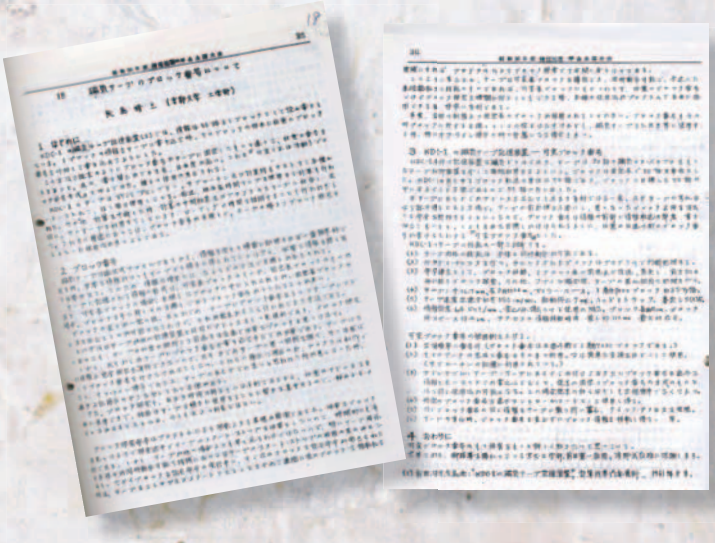
### 一般社会

・東大安田講堂の落城　・大学立法，紛争校平常化
・米アポロ 11 号有人月着陸成功

### 情報処理学会

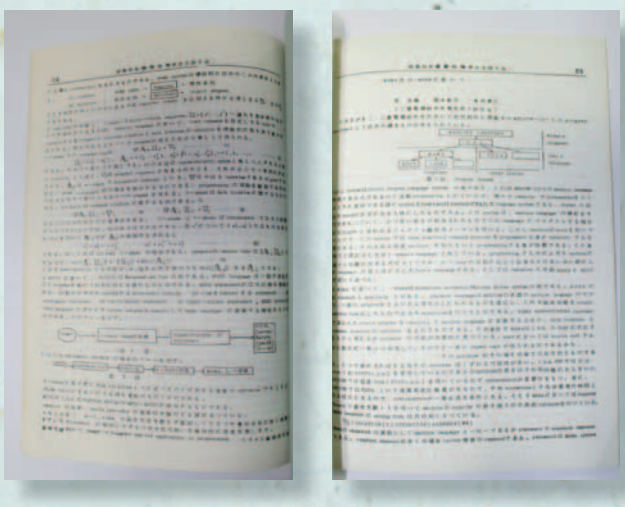
・第 10 回全国大会を機械振興会館で開催（招待 2 件,論文 50 件）
・学会誌特集号「漢字・情報処理」を発行
・CDC，初のスーパーコンピュータと称される CDC 7600 発表

**歴代会長　第 5 代　高橋 秀俊（1969 ～ 1970）**



### 矢島先生の第 2 回の予稿集

タイトルは「磁気テープのブロック番号について」である．第 1 回は，発表数が 29，第 2 回では 32 と数が増えている．また，招待講演として，イリノイ大学の D.E.Muller 氏が「New Illinois Computer」を，東大の森口繁一先生が「海外での見聞」を，情報処理学会の山下会長が「IFIP（第三回）大会報告」を行っている．以降，招待講演は定着化している．



### 初めての和文ワープロ（第 1 回）

第 1 回当時は，手書きの論文がほとんどであったが，一部の企業の中には，和文ワープロが用いられていた．初めての和文ワープロ文書は，第 1 回の「MAMA 及び MUSE に就いて」（三菱電機研究所電気第 2 研究室　菅忠義，関本彰次，魚田勝臣）であった．

### JW-10（東芝科学館）

日本初のワードプロセッサ．通称ワープロ．テーブルほどの大きさだった．全国大会では，東芝の森健一氏が発表し，大きな話題となった．研究者だけでなく，報道関係者なども詰め掛け，会場は立ち見がでるほどの盛況で，200 人以上がいたという．

## 昭和 45 年（1970 年）

**一般社会**

・よど号ハイジャック事件　・日本万国博開催　・プロ野球黒い霧

**情報処理学会**

・学会誌「情報処理」が月刊となる

・創立 10 周年記念（第 11 回）全国大会を日本都市センター，他で開催

・夏のシンポジウムの開催（以降毎年 7 月に開催）

## 昭和 46 年（1971 年）

**一般社会**

・沖縄返還協定強硬採決　・1 ドル 308 円切り上げ

・インド，パキスタン全面戦争

**情報処理学会**

・第 12 回全国大会を日本都市センター，他で開催

・IFIP 副会長に後藤英一が選出される

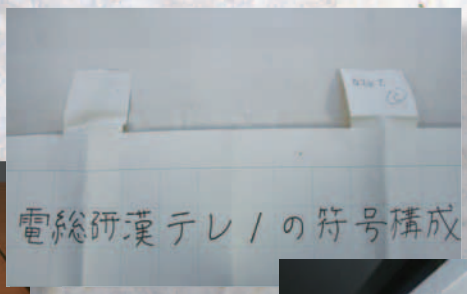
・学会誌特集号「超大型機」の発行

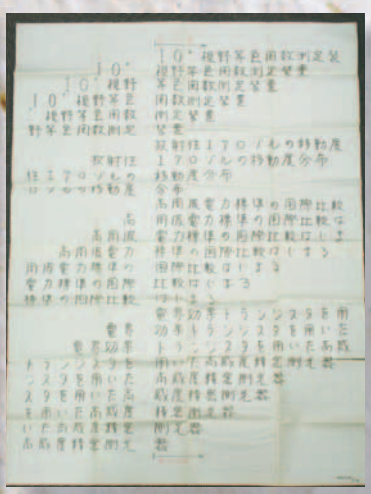
**歴代会長　第 6 代 清野 武（1971 ～ 1972）**

# 創成期の全国大会

### 植村俊亮先生の発表（温故知新より）

情報処理学会で行われた温故知新のセッションでは，植村先生が当時の模造紙の発表の様子を再現．使用した模造紙では，紙を２重にして文字を修正した跡や，ハンガーで吊るして表示するためのミミなど，当時のご苦労が随所に窺える．





### アナログ（模造紙）とディジタル（データ）のメリットデメリット

模造紙の発表時代は，停電などの電機系のトラブルがあっても発表に差し支えなかったのが利点である．しかし，しっかりと防水対策をしておかないと雨などの水で，模造紙がふやけたり，文字が滲んでしまうこともある．また，その大きさから，持ち運びが大変であったそうだ．

## 昭和 47 年（1972 年）

**一般社会**

- 沖縄返還　・田中角栄政権誕生，日中国交回復
- グアム島で横井庄一発見

**情報処理学会**

- 第 13 回全国大会を日本都市センターで開催
- 情報処理ハンドブックの発行
- 第 1 回日米コンピュータ会議を日本都市センターで AFIPS と共催

## 昭和 48 年（1973 年）

**一般社会**

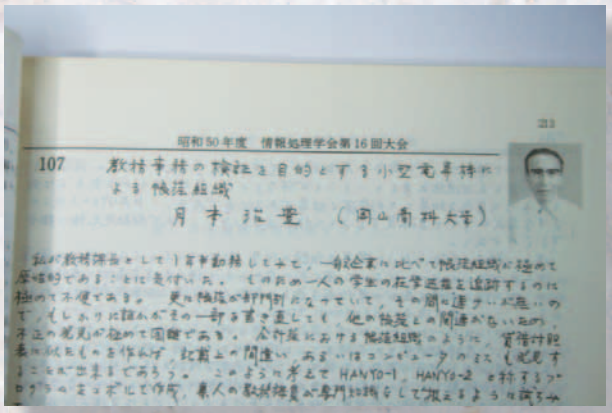
- オイルショック，買いだめ騒動　・金大中氏誘拐事件
- ベトナム和平協定調印

**情報処理学会**

- 第 14 回全国大会を早稲田大学理工学部で開催
- 講習会「マイクロプログラミング」を東京で開催

**歴代会長　第 7 代 尾見 半左右（1973 ～ 1974）**

全国大会
発表方法の移り変わり
SINCE 1960～2010




### 予稿集初のプロフィール写真の掲載（岡山商科大学 月本治豊先生）

全国大会の予稿集に，初めて執筆者の顔写真が掲載されたのは，第 16 回大会である．翌年，竹内郁雄先生はこの顔写真に感銘し，3 回連続で写真の掲載を行っている．発表内容は，「教務事務の検証を目的とする小型電算機による帳簿組織」である．岡山商科大学が情報処理学会での発表を行うのは非常にめずらしい．月本先生は，この後も，いくつか論文を発表している．

### 広告の初掲載（第 10 回）

予稿集に広告が掲載されたのは，第 10 回から．最初に掲載されているのは，沖電気工業株式会社と株式会社日立製作所．

### 電信鍵盤

当時は，テープに穴をあけて，それをコンピュータに読ませていた．穴の開け方によって，読み取られ方が異なる．これは，その一覧表．当時は，このような表を使っていた．

## 昭和 49 年（1974 年）

**一般社会**

- 田中首相辞任　・ルパング島で小野田少尉救出
- ウォーターゲート事件

**情報処理学会**

- 創立 15 周年記念（第 15 回）全国大会を京都国際会館で開催
- 漢字情報処理研究発表会を開催
- IFIP 理事会を機械振興会館で開催

## 昭和 50 年（1975 年）

**一般社会**

- 天皇皇后訪米　・三億円事件時効
- 米ソ宇宙船，ドッキングに成功

**情報処理学会**

- 第 16 回全国大会を慶應義塾大学日吉，矢上両校舎で開催
- 知能ロボット研究発表会を開催．

**歴代会長　第 8 代 北川 敏男（1975～1976）**

# 盛り上がりを見せる昭和から平成

**手書きの看板（第 25 回）**

予算の関係などから，当時の看板も手書きであった．独特の味のある字である．

**参加章と論文集の引き替え所（第 25 回大会）**

全国大会は日本全国から多くの方に出席いただいている．この頃からは，外国からの傍聴者も増え，より国際色も強まっていった．

## 昭和 51 年（1976 年）

### 一般社会

- ロッキード疑獄事件，田中角栄元首相逮捕
- ミグ 25 亡命事件
- モントリオールオリンピック開催

### 情報処理学会

- 第 17 回全国大会を慶應義塾大学日吉，矢上両校舎で開催
- 学会誌特集号「データベース」の発行

## 昭和 52 年（1977 年）

### 一般社会

- 日本赤軍，日航ハイジャック事件
- 日本 200 海里宣言
- 王貞治（巨人軍）756 号ホームランを達成

### 情報処理学会

- 第 18 回全国大会を東京工業大学で開催
- 「コンピュータシステムの高信頼化」（編集委員長：猪瀬博）を発行

**歴代会長　第 9 代 穂坂 衛（1977 ～ 1978）**

### OHP の時代

OHP とは，ご存じのとおり「OverHead Projector」の略で，光の反射を利用してスクリーンに投影する装置のこと．模造紙から OHP に移行し，停電などでは，大騒ぎになることも多かった．また，OHP のスライドは作るのに時間がかかった．OHP の特徴として，スクリーンに綺麗に四角を投影できなかったため，よく台形になっていた．竹内氏談「その台形の投影に合わせて，最初からスライドの四角を逆台形にして作った」

### OHP のスライド

すべて手書きで作られた OHP のスライド．手書きであるため，文字の綺麗さも問われるが，逆にさまざまな試みができた．プログラミソグ画法．「ン」ではなく，「ソ」になっている．参考建築として，日光東照宮の陽明門が挙げられている．当時，何人の人が気づいたか．

**昭和 53 年（1978 年）**

**一般社会**

・成田空港開港　・鄧小平副首相来日　・米中国交正常化

**情報処理学会**

・第 19 回全国大会を東京電機大学で開催
・欧文誌「Journal of Information Processing」（季刊）の発刊
・学会誌特集号「人工知能とソフトウェア」の発行

**昭和 54 年（1979 年）**

**一般社会**

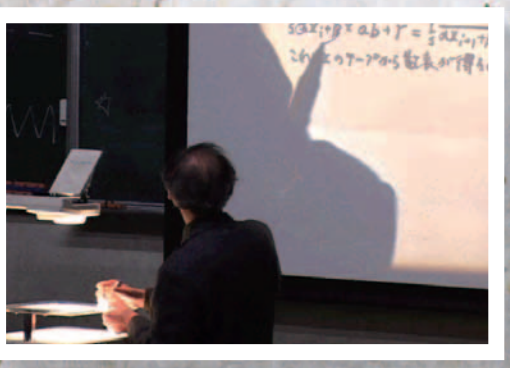
・東京サミット　・東名，日本坂トンネル事故
・WHO，天然痘根絶を発表

**情報処理学会**

・第 20 回全国大会を日本大学理工学部（神田）で開催
・「オンライン情報サービス・シンポジウム」を機械振興会館で開催

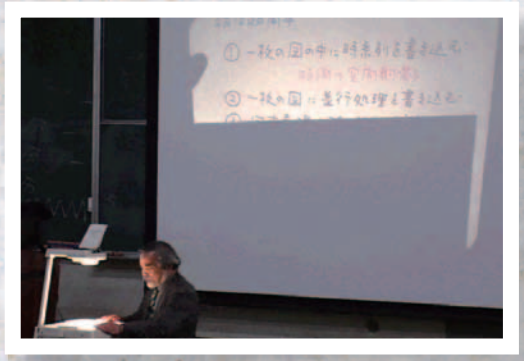
**歴代会長　第 10 代 小林 宏治（1979 ～ 1980）**

# 盛り上がりを見せる昭和から平成



**OHP に書き込みながら解説**
**（温故知新より，和田英一先生）**

和田英一先生は，OHP のスライドにマジックで実際に手書きで書きながら解説をしていた．第 8 回大会では，真っ白な模造紙を用いて，そこに書きこみながら発表した．このようなスタイルは，和田先生独自のものである．



**紙で一部を隠しながら発表**
**（竹内郁雄先生，温故知新より）**

スライドの一部を隠して順番に説明していくことで，どの部分について話しているかがわかる．説明方法の 1 つ．

**指揮棒による説明（第 25 回全国大会）**

指揮棒は会場に用意してあるものを使う先生や，持ち込みのものを使う先生もいた．スクリーンの一番上に届くように，指揮棒の長さは人間の身長ほどもある．また，伸縮自在である．

## 昭和 55 年（1980 年）

### 一般社会

・大平首相急死　・巨人軍長嶋茂雄監督辞任，王貞治引退
・新宿バス放火事件

### 情報処理学会

・創立 20 周年記念（第 21 回）全国大会を日本都市センター，他で開催
・創立 20 周年記念「情報処理叢書」（全 10 冊）の第 1 冊発行

## 昭和 56 年（1981 年）

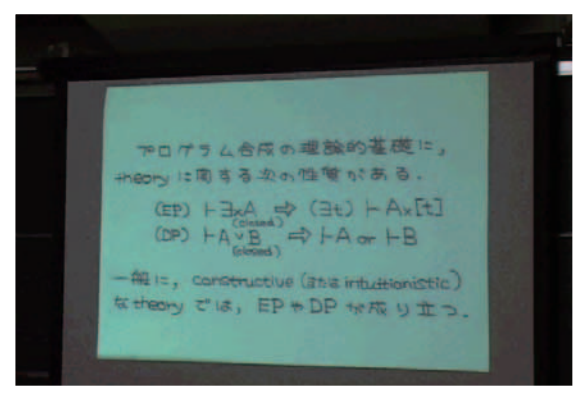
### 一般社会

・スペースシャトル打ち上げ成功　・北炭夕張炭鉱ガス突出事故
・レーガン大統領狙撃

### 情報処理学会

・第 22 回全国大会（昭和 56 年前期）を学習院大学で開催．以降，年 2 回開催となる．
・第 23 回全国大会（昭和 56 年後期）を東京大学工学部で開催．

**歴代会長　第 11 代 猪瀬 博（1981 ～ 1982）**




**手書きの OHP（萩谷昌己先生，温故知新より）**

現在は，綺麗なフォントによってスライドを作るのが通例であるが，当時は，透明な OHP のシートに直接マジックで書いていた．

**印字された OHP のスライド**

OHP の発表も，手書きから印字されたものに変化してきた．当初は，青焼きと呼ばれ，原稿を OHP のシートに焼き付ける機械があった．その後，プリンタの登場でスライドに直接印字することができる．

**OHP による発表．シートを紙の額に入れている（第 25 回）**

OHP の場合，ライトで照らしているため，フラッシュをたくとスクリーンの文字が読みとりにくくなる．これは綺麗に撮影された例．気づきにくいかもしれないが，OHP のスライドに額が入っている．これは，OHP のシートがペラペラだったため，その補強として紙の額に入れたと考えられる．静電気でスライドがくっついてしまうこともあった．

## 昭和 57 年（1982 年）

### 一般社会

・ホテルニュージャパン火災　・日航機羽田沖墜落
・フォークランド紛争

### 情報処理学会

・第 24 回全国大会（昭和 57 年前期）を東京電機大学で開催
・第 25 回全国大会（昭和 57 年後期）を九州大学工学部・理学部で開催

## 昭和 58 年（1983 年）

### 一般社会

・日本海中部地震　・伊豆諸島三宅島雄山噴火
・エイズ，アメリカ・ヨーロッパで流行

### 情報処理学会

・第 26 回全国大会（昭和 58 年前期）を東京工業大学で開催
・第 27 回全国大会（昭和 58 年後期）を名古屋大学工学部で開催
・会員業務の EDP 化を開始（機関誌の郵送用ラベルなど）

**歴代会長　第 12 代 坂井 利之（1983～1984）**

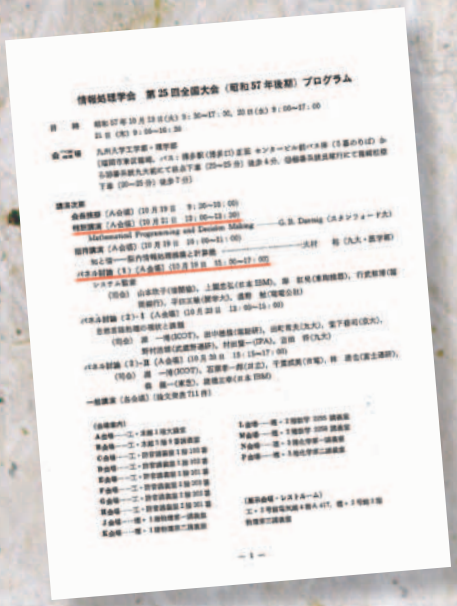
# 盛り上がりを見せる昭和から平成

### 海外在籍の教授による招待講演

招待講演「Mathematical Programming and Decision Making」スタンフォード大学 G.B.Dantzing．黄色いものはライト．当時は，OHP を見やすくするために教室の電気を消していた．そのため，手元の原稿が見えるように，スタンドライトなどを置くこともあったようだ．

### パネル討論会のビデオ撮影

ビデオカメラによる撮影が行われていた．電電公社（現在の NTT）や福岡銀行，日本 IBM など，企業の方たちによるパネル討論会で，タイトルは「システム監査」である．研究分野というよりも，実務に即した内容であったと思われる．



情報処理学会　第 25 回全国大会（昭和 57 年後期）プログラム

### 第 25 回全国大会プログラム

本ページで紹介している講演のプログラム．注目度の高い講演は大講堂などの大会場で行われていた．こちらを見てもおわかりのように，この頃から発表の場は，14 会場に加え展示会場などを用意するなど活況であったことが窺える．

## 昭和 59 年（1984 年）

### 一般社会

- グリコ森永事件
- 新日本銀行券（1 万円札，5 千円札，千円札）発行
- 放送衛星ゆり 2 号 a 打ち上げ，衛星放送開始

### 情報処理学会

- 第 28 回全国大会（昭和 59 年前期）を電気通信大学で開催
- 第 29 回全国大会（昭和 59 年後期）を東北工業大学で開催

## 昭和 60 年（1985 年）

### 一般社会

- 科学万博（つくば）開催　・阪神タイガース日本一
- 日航ジャンボ機，御巣鷹山墜落

### 情報処理学会

- 第 30 回全国大会（昭和 60 年前期）を工学院大学で開催
- 創立 25 周年記念（第 31 回）全国大会（昭和 60 年後期）を学習院大学と東京電機大学で開催．第 1 回学術奨励賞の表彰．

**歴代会長　第 13 代 尾関 雅則（1985 ～ 1986）**

**会長挨拶にカメラ撮影（第 29 回）**

講演しているのは，第 12 代坂井利之会長である．カメラで撮影された映像が，テレビのスクリーンに表示されている．当時の状況は，わからない点もあるが，開催地が仙台ということもあり，情報処理学会のような大規模な全国大会は稀有な例であった可能性もある．特に，情報処理学会全国大会は，1 年に 2 回に分かれたことで，より地方での開催が行われるようになり，それまで以上に地方のネットワークの強化や土壌作りに貢献していたと考えられる．

## 昭和 61 年（1986 年）

### 一般社会

・チャールズ皇太子とダイアナ妃来日
・伊豆諸島大島三原山噴火　・チェルノブイリ原発事故

### 情報処理学会

・第 32 回全国大会（昭和 61 年前期）を学習院大学で開催
・第 33 回全国大会（昭和 62 年後期）を広島工業大学で開催
・電気・情報関連学会連合大会を中央大学理工学部で共催

## 昭和 62 年（1987 年）

### 一般社会

・NTT 株の初値 1 株 160 万円　・石原裕次郎氏死去
・ソ連．ペレストロイカ

### 情報処理学会

・第 34 回全国大会（昭和 62 年前期）を日本大学理工学部（習志野）で開催
・第 35 回全国大会（昭和 62 年後期）を北海道大学で開催

**歴代会長　第 14 代 大野 豊（1987 ～ 1988）**

# 盛り上がりを見せる昭和から平成

### プロジェクタの登場（第 29 回）

第 1 回大会は模造紙による発表だった．その後，OHP による発表に徐々にシフトしていく．第 29 回大会（昭和 59 年）では，プロジェクタが登場している．
しかし，その後も当分は OHP による発表が主だった．当時は高価ということもあり，大学の予算面の影響が大きいと思われる．プロジェクタは徐々に導入されていくことになる．

### 現在の発表の仕方

写真は，情報処理学会創立 50 周年記念（第 72 回）全国大会の超大型壁掛液晶ディスプレイによる発表である．場所は，東京大学の安田講堂で，約 1,000 人収容できる．模造紙の頃の発表では，収容人数の限界は 200 人ほどであったため，より多くの方々が聴講できる環境になってきたと言える．安田講堂のイベントはインターネットライブでも生中継された．
また，実際にデモンストレーションを行いながら発表するというスタイルもある．写真は，50 周年記念大会の今ドキッの IT から，第 1 サテライト会場（工学部 11 号館）で行われた未来の電話「t-Room」のもの．全国大会では，常にさまざまな試みが行われている．

## 昭和 63 年（1988 年）

**一般社会**

・青函トンネル開業　・リクルート疑惑　・ソウルオリンピック開催

**情報処理学会**

・第 36 回全国大会（昭和 63 年前期）を慶應義塾大学（日吉校舎）で開催
・第 37 回全国大会（昭和 63 年後期）を立命館大学（京都）で開催

## 平成元年（1989 年）

**一般社会**

・昭和天皇崩御　・リクルート事件で逮捕者　・中国天安門事件

**情報処理学会**

・第 38 回全国大会（平成元年前期）を中央大学（春日校舎）で開催
・第 39 回全国大会（平成元年後期）を九州工業大学（工学部）で開催

**歴代会長　第 15 代 三浦 武雄（1989 ～ 1990）**

受付の写真（第 26 回, 第 29 回～第 31 回, 第 72 回）

長年使われている「お釣銭の要らぬようご協力願います.」の札. 途中から,「つり銭のないようお願いします.」の札が増えている. 第 1 回（東京都大手町, 産経会館）の参加登録者は 243 人（発表件数 29 件）だった. それが, 1970 年の第 21 回全国大会では, 20 周年記念大会ということもあり, 一般研究発表件数が 600 を超え, 参加者も約 1700 人となり, 盛会を極めた. 翌年から, 2 回に分かれたものの参加者の数は 1100 人ほどおり, 毎年少人数で入場者の管理をしていたと思われる.

## 平成 2 年（1990 年）

### 一般社会

・バブル崩壊　・イラクがクウェート侵攻

・秋山記者, 日本人初の宇宙旅行

### 情報処理学会

・創立 30 周年記念（第 40 回）全国大会（平成 2 年前期）を早稲田大学（理工学部）で開催

・第 41 回全国大会（平成 2 年後期）を東北大学で開催

## 平成 3 年（1991 年）

### 一般社会

・雲仙普賢岳で火砕流　・千代の富士引退, 若貴人気

・湾岸戦争勃発

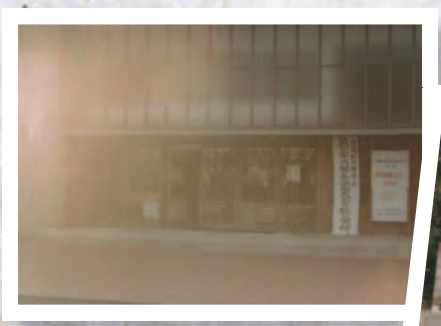
### 情報処理学会

・第 42 回全国大会（平成 3 年前期）を東京工科大学で開催

・第 43 回全国大会（平成 3 年後期）を名古屋大学で開催

**歴代会長　第 16 代 萩原 宏（1991 ～ 1992）**

# 盛り上がりを見せる昭和から平成



全国大会の看板（第 26 回，第 29 回～第 31 回，第 72 回）

第 29 回からは，看板も凝ったものになっている．それ以前の手書きによる看板もこうしてみると味わいがあるのが印象的だ．

## 平成 4 年（1992 年）

### 一般社会

- PKO 法案成立，自衛隊カンボジアへ派遣
- 米ロスアンゼルスで人種暴動
- バルセロナオリンピック，岩崎恭子氏が日本最年少金メダル

### 情報処理学会

- 第 44 回全国大会（平成 4 年前期）を明治大学（理工学部）で開催
- 第 45 回全国大会（平成 4 年後期）を徳島大学（教育部）で開催

## 平成 5 年（1993 年）

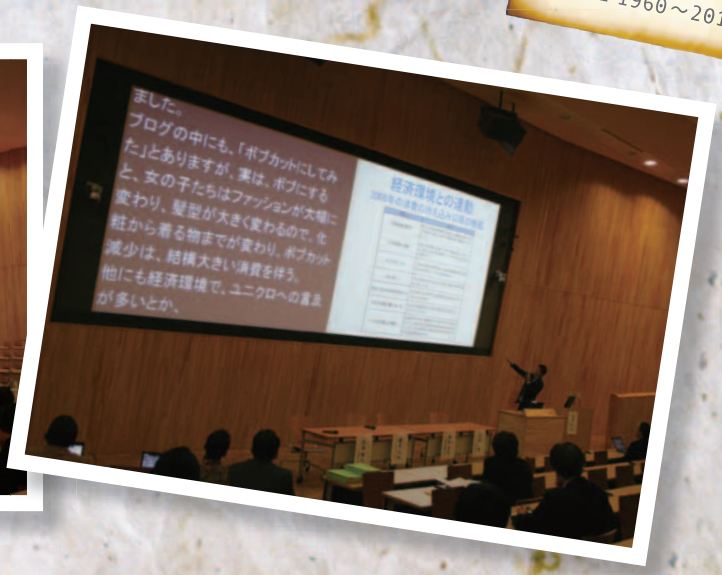
### 一般社会

- 異常気象でコメ緊急輸入　・北海道南西沖地震発生
- J リーグ（日本プロサッカーリーグ）開幕

### 情報処理学会

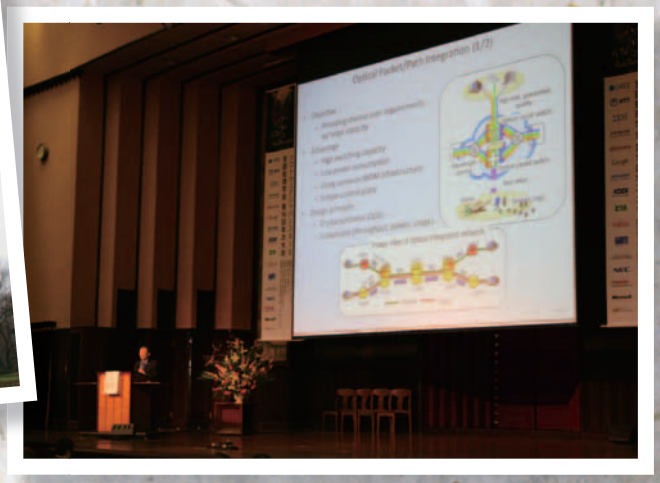
- 第 46 回全国大会（平成 5 年前期）を工学院大学で開催
- 第 47 回全国大会（平成 5 年後期）を鳥取大学で開催

**歴代会長　第 17 代 水野 幸男（1993 ～ 1994）**




近年の発表の様子（第 72 回）

近年では，プロジェクタなどではなく，そのまま表示されるディスプレイが備え付けられている場合もある．これは，第 72 回の福武ラーニングシアターの講演の様子である．以前のプロジェクタのように画面がズレたり，OHP がさかさまに映ったりするようなことはなくなったと思われる．また，会場の人々を見るとわかるが，多くの人がノートパソコンを使用している．これも，以前には見られなかった光景と言えよう．



安田講堂での講演（第 72 回）

数百人が入る安田講堂では，メインの招待講演や大会挨拶が行われた．多くの方が来場し，1 階席はほぼ満席状態．2 階席も埋まっていた．写真は，9 日に行われた「来るべきクラウドコンピューティングの世界」から．

## 平成 6 年（1994 年）

### 一般社会

・記録的猛暑で水不足深刻化　・中華航空機着陸失敗
・向井千秋氏，日本人初の女性宇宙飛行士に

### 情報処理学会

・第 48 回全国大会（平成 6 年前期）を東京理科大学で開催
・第 49 回全国大会（平成 6 年後期）を北海道大学（教育部）で開催

## 平成 7 年（1995 年）

### 一般社会

・阪神淡路大震災発生　・東京地下鉄サリン噴霧事件
・金融機関の経営破綻が相次ぐ

### 情報処理学会

・第 50 回全国大会（平成 7 年前期）を青山学院大学で開催
・第 51 回全国大会（平成 7 年後期）を富山大学で開催

**歴代会長　第 18 代 野口 正一（1995 ～ 1996）**

# さらなる飛躍を遂げる近年

**私の詩と真実より（第 72 回大会）**

50 周年記念大会のセッション「私の詩と真実」より，東京女子大学 名誉教授 水谷 静夫先生の講演の様子．多くの方が聴講に来ており，席は満席だった．内容は，翻訳機械と日本語について．

**企業ブース（第 72 回）**

企業ブースにも多くの方が訪れていた．第 72 回大会は，事前申込者が過去最高で，6000 人を超えており，多くの方で賑わっていた．第 72 回大会は，東京大学の本郷キャンパスで開催され，メインの招待講演などは安田講堂で行われた．開会式では，大会委員長である喜連川先生から，本大会の状況について説明があった．右のスライドは，今回の事前参加申込者の日ごとの推移である．

## 平成 8 年（1996 年）

**一般社会**

- O157 食中毒が猛威　・薬害エイズ事件
- 小選挙区比例代表並立制総選挙を実施

**情報処理学会**

- 第 52 回全国大会（平成 8 年前期）を電気通信大学で開催
- 第 53 回全国大会（平成 8 年後期）を大阪工業大学で開催
- 大会プログラム委員会を新設

## 平成 9 年（1997 年）

**一般社会**

- 消費税率 5%に　・香港が中国へ返還
- 日本サッカー，ワールドカップ出場を決定

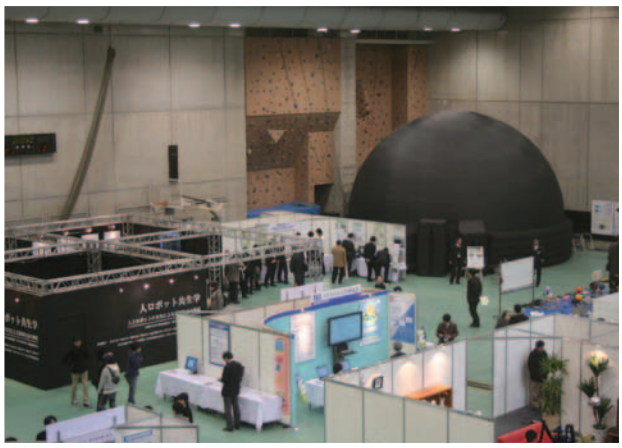
**情報処理学会**

- 第 54 回全国大会（平成 9 年前期）を千葉工業大学で開催
- 第 55 回全国大会（平成 9 年後期）を福岡工業大学で開催

**歴代会長　第 19 代 戸田 巌（1997 ～ 1998）**

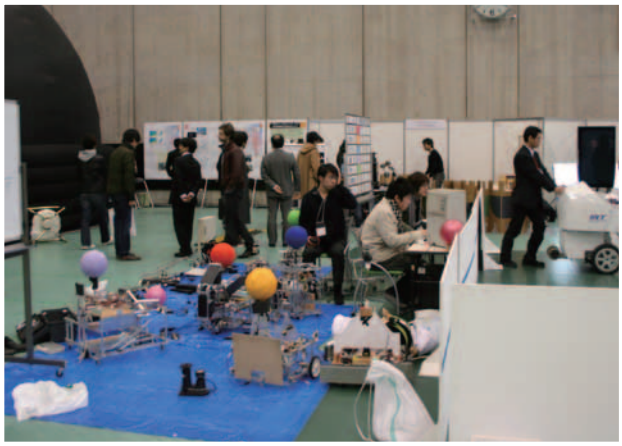
**図表：今ドキッの IT（第 72 回）**

今ドキッの IT では，情報処理に関する「大型プロジェクト」の成果や動向のデモンストレーションを行っていた．従来よりも，広く訴求するイベントとして企画されたもの．



会場の全体

4K 超高精細全天ドーム映像上映（超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム　URCF）
2009 年 7 月 22 日に奄美大島で撮影された皆既日食の全天映像を上映し，超臨場感技術を紹介した．



ロボットのデモンストレーション．ロボワンなどを彷彿とさせる．

音声認識ロボット

## 平成 10 年（1998 年）

### 一般社会

・和歌山カレーヒ素事件　・金融ビックバン
・若貴，兄弟横綱誕生

### 情報処理学会

・第 56 回全国大会（平成 10 年前期）を中央大学（理工学部）で開催
・第 57 回全国大会（平成 10 年後期）を名古屋大学（工学部）で開催

## 平成 11 年（1999 年）

### 一般社会

・東海村臨界事故発生　・神奈川県警不祥事続出
・EU，ユーロを導入

### 情報処理学会

・第 58 回全国大会（平成 11 年前期）を早稲田大学（西早稲田キャンパス）で開催
・第 59 回全国大会（平成 11 年後期）を岩手県立大学で開催

**歴代会長　第 20 代 長尾 真（1999～2000）　第 21 代 鶴保 征城（2001～2002）**

# さらなる飛躍を遂げる近年

セカンドライフ，仮想会場，Twitter の活用

情報処理学会では，実際の大会と並行して，セカンドライフや仮想会場といったバーチャル空間でも全国大会を開催し，新しいテクノロジーに積極的に取り組んでいる．創立 50 周年記念（第 72 回）全国大会においては，情報発信のツールとして Twitter（ツイッター）を活用している．第 72 回全国大会では，このような取り組みが功を奏し，過去最高の参加者となる 7,150 人を集めた．1 学会の全国大会としては，かなりの規模であり，その試みも情報処理学会ならではと言えよう．

## 平成 12 年（2000 年）

### 一般社会

・沖縄サミット開催　・三宅島全島民避難

・ON 対決，長嶋巨人が王ホークスを破り日本一

### 情報処理学会

・第 60 回全国大会（平成 12 年前期）を拓殖大学（八王子キャンパス）で開催

・第 61 回全国大会（平成 12 年後期）を愛媛大学（城北キャンパス）で開催

## 平成 13 年（2001 年）

### 一般社会

・小泉内閣発足　・米国同時多発テロ事件

### 情報処理学会

・第 62 回全国大会（平成 13 年前期）を慶應義塾大学（矢上キャンパス）で開催（創立 40 周年記念大会）

・第 63 回全国大会（平成 13 年後期）を山口大学（吉田地区キャンパス）で開催

**歴代会長　第 22 代 益田 隆司（2003 ～ 2004）　第 23 代 安西 祐一郎（2005 ～ 2006）**

# 取材を終えて －編集後記－

インターネットが情報収集の基盤となりつつある昨今において，足りないものがあるとすれば，過去の写真や資料であるように思う．全国大会の資料においても，当初は思いのほか集まっていなかったのが実情である．
そこで，第 1 回全国大会の予稿集を参考に，当時の参加者（発表者）の方や，大学，参加企業に直接電話やメールで連絡を取り，写真や資料を探すこととした．50 年前ということもあり，連絡が取れないケースや資料が残っていないケースが多々あり，その歳月の重みを感じた．
そのような中で，京都大学名誉教授 矢島脩三先生から，大変貴重な写真を提供いただき，本企画の誌面にて大いに活用した．特にコンピュータパイオニアの写真については，日本のコンピュータ業界を牽引してきた方々が写っており，全国大会の写真ではないのであるが，情報処理技術において果たした役割は大きく掲載させていただいた．矢島先生とご連絡する際には，京都大学大学院情報学研究科教授 岩間一雄先生にご助力いただき，大変感謝している次第である．
また，富士通沼津工場 池田記念室からは，FACOM 222 に関する直筆のノート（作成者：池田敏雄氏と石井康雄氏）の資料をいただいた．本資料は Web に掲載されていないもので，今回の企画のために資料を探していただいた．ご協力いただいた富士通沼津工場総務部 高橋理恵様に感謝の意を表したいと思う．
その他にも，多くの皆さまに快くご協力いただき，さまざまな写真や資料を掲載できたことを嬉しく感じている．
現在，全国大会の発表はプロジェクタやスクリーン投影などで行われているが，情報処理学会設立当初は，模造紙を使って発表が行われていた．若い世代の方にとっては想像できないかもしれない．模造紙による発表資料については，奈良産業大学教授 植村俊亮先生に，実際に発表に使用した模造紙をお借りすることができた．当時の資料はとても少なく，大変貴重な有形資料である．
今回，インタビューや資料の調査を行っていく中で感じたのは，情報処理技術はインフラとなり，1 つのフェーズを終え，次のステージに進もうとしていることである．また，情報処理技術の黎明期は，非常に熱っぽく，エネルギーに満ち満ちていた．それが今は少し薄れているというご意見もある．しかし，50 周年記念大会における今ドキッの IT などの試みは，次のステージの第一歩であると感じている．これからの 50 年が非常に楽しみである．

最後に，本企画にご協力いただいた各氏，各企業・団体に厚く御礼を申し上げ，取材後記としたい．

**- 記事制作にご協力いただいた皆様 -（あいうえお順，敬称略）**

J-POWER（電源開発株式会社）
岡山商科大学
株式会社 東芝
株式会社日立製作所
京都大学大学院情報学研究科教授 岩間一雄
京都大学名誉教授 矢島脩三
国立科学博物館
三菱電機株式会社
東芝科学館
東北大学電気通信研究所
奈良産業大学教授 植村俊亮
富士通株式会社
富士通沼津工場 池田記念室
横河電機株式会社
早稲田大学
早稲田大学名誉教授 示村悦二郎

**平成 14 年（2002 年）**

**一般社会**
・日韓首脳会議開催　・サッカーワールドカップ日韓共同開催
・住民基本台帳ネットワーク稼働

**情報処理学会**
・第 64 回全国大会（平成 14 年）を東京電機大学（鳩山キャンパス）で開催
・第 1 回 FIT2002（平成 14 年）を東京工業大学で開催

**平成 15 年（2003 年）**

**一般社会**
・個人情報関連法成立　・民主党躍進，自民と 2 大政党化
・スペースシャトル，コロンビア空中分解

**情報処理学会**
・第 65 回全国大会（平成 15 年）を東京工科大学（八王子キャンパス）で開催
・第 2 回 FIT2003（平成 15 年）を札幌学院大学で開催

**歴代会長　第 24 代 佐々木 元（2007～2008）　第 25 代 白鳥 則郎（2009～　　）**